

会 議 報 告 書

- 【会 議 名】 第4回 三朝町生涯学習推進プラン(仮称)策定委員会
【日 時】 令和6年12月4日(水) 午後6時30分から午後8時30分まで
【場 所】 役場第2会議室
【出 席 者】 (1) 策定委員 7名(欠席4名)
(2) 事務局 2名(下表のとおり)

【報告事項】

1 会議の成立

策定委員会設置要綱第6条第2項に基づき、委員の半数以上の出席(11名中7名の出席)を確認し、本会は成立。

2 会議内容

(1) 委員長挨拶 ※議事録参照

(2) 第4章「計画の方向性」の原稿案について(協議)

- ・資料…別添「第4章 計画の方向性」原稿案
- ・原稿作成の方向性として事務局案のとおり承認。
- ・ただし委員から以下の意見あり。今後、これらの意見を踏まえて修正を図る。

〔委員意見〕

- ・基本理念又は基本目標(説明文含む)に、三朝を象徴するような言葉が欲しい。
- ・基本施策1-③「生涯学習情報提供の充実」は削除。
→情報提供は重要だが、基本施策の並びには合わない。
- ・基本目標2…「文化」という言葉は「芸術・文化」という言葉にしなくてよいか?
(説明文内には「芸術・文化活動」という標記あり。これとの整合性。)
- ・基本目標3の副題内にある「協力」という言葉を別の表現にする。
→「協力」という言葉はやや限定的な印象。

(3) 第5章「施策の取り組み」について(協議)

- ・資料…別添「第5章 施策の取り組み」原稿案
- ・基本目標1～3に対する「施策目標」と「取組の方向性」をグループワークで協議。

グループ	テーマ	メンバー(◎…まとめ役)
1	学び合う“みささ”	◎副委員長、土居委員、福井委員
2	元気で心豊かな“みささ”	◎谷川課長、藤原委員、委員
3	つながる“みささ”	◎委員長、長安委員、村岡

- ・各グループの主な意見は別記及び議事録のとおり。
→これらの意見を事務局でまとめ、第5章原稿案を作成。
本案を正副委員長ミーティング及び次回策定委員会で再協議する。

(別記：各グループにおける主な意見)

グループ1「学び合う“みささ”」

- ・基本施策1－①の「ライフステージに応じた…」という部分で「家庭教育と成人教育の観点でまとめるべきか」ということについて協議。
→結論出ず。
 - >ライフステージという広義的な意味でも良い気がする。
 - >「家庭教育」という言葉が分かりにくい可能性も。
 - >「子ども」と「大人」にカテゴライズした方が分かりやすいかも。
- ・施策目標（取り組みも含む）
 - >屋外で子どもと保護者を屋外に引っ張り出して遊ばせる機会を作る
 - >多様な学習活動の参加を促進する
 - >産業界や大学と連携した出前講座、リスキリング
 - >社会人向けに、常識や良識を学ばせる講座の提供
 - >ICT
 - >基本施策2（スポーツ、文化活動等）の施策と被らない実現可能な事（キャンプや百人一首、eスポーツ）
- ・全体会での意見
 - >人権教育の出前講座で、短時間でも別テーマのミニ講座を実施。
 - >親子間のコミュニケーションスキルをテーマにした講座。
 - >講座及び講師のリスト化…人材バンク
 - >まちゼミ

グループ2「元気で心豊かな“みささ”」

- ・基本施策2－①「スポーツ・文化活動を気楽に体験…」
 - >施策目標…『町民80%参加を目指した一スポーツ一文化活動の推進』
 - >取り組み…初心者向けの体験会や各スポーツ団体の主催する専門的なイベント
- ・基本施策2－②「町民が主体的に活動する…団体、グループの支援」
 - >施策目標…『ニーズに合った支援の充実』
 - >取り組み…施設利用料の減免、専門家の講演会等により知識や技術の向上を図る
- ・基本施策2－③「スポーツ文化・活動を牽引・指導する…」
 - >施策目標…『後継者の育成』
 - >取り組み…多世代交流の場を設ける。指導者に対して資格取得の支援。
- ・全体会での意見
 - >体育協会競技部や文化団体サークルの周知（参加や見学の仕方）。
 - >何かをやりたいと思った町民が気軽に相談できる窓口機能の充実。
 - >新たな取り組みや継続を図ろうとする活動に対する支援の充実。

グループ3「つながる“みささ”」

- ・企画した人達が楽しんでやるような仕組みづくり。
- ・既存組織として消防団のつながりをもっと活かさないか。

- ・既存施設や場所を有効活用するような、後押しができるような仕組み。
- ・人材育成の取組として、何かのイベントと研修をセットに開催。
- ・講座やイベント開催における補助。
- ・講師や指導者のアドバイザーバンクの構築。
- ・講座に参加したり、リーダーになったらポイントが貯まっていくような仕組み。

(4) その他

- ・次回策定委員会（第5回）は、1月下旬に開催することを決定。
- ・次回会議開催前に正副委員長と事務局による打合せを実施。

第4回 三朝町生涯学習推進プラン（仮称）策定委員会 議事録

日時：令和6年12月4日（水）

午後6時30分～午後8時30分

場所：三朝町役場 第2会議室

委員長あいさつ

前回の議論を基に、事務局からご提案いただいた第4章と第5章について、今日話を進めていきたいと思います。

第4章がすごく大きな方向性を指し示すものになりますので、もし、ちょっとここをこうした方がいいっていう思いがございましたらぜひご発言いただきたいと思います。

今日、この第4章はもう方向性をきっちり決めて、そのあとの第5章の内容に移っていききたいと思います。よろしくお願いします。

ただ、今日の議論は主に第5章のグループ討議が中心になると思います。具体的にどんな取り組みをすればいいとか、これからこのプラン…令和10年度までが目標になりますけれども、令和10年度までに達成できるような取り組みや目標をしっかりと作っていききたいと思います。

今日もちょっと遅くなるかもしれませんが、ぜひ熱い議論をいただければと思います。よろしくお願いします。

議題（1）第4章「計画の方向性」の原稿案について

事務局

まず第4章「計画の方向性」案について、作成の経緯を説明します。

前回の策定委員会で、生涯学習のまち宣言をベースにしながら、大きく3つの項目に分けていただいたと思います。

その内容が「①学びの環境と企画・提案する機会の創出」、「②文化・スポーツの振興」、「③連携を核にしたつながりづくり、人材育成」でした。

これをもとに事務局で、基本目標を3つ考えました。「① 学び合う“みささ”！ みんなで育てる未来の力」、「② 元気で心豊かな“みささ”！ スポーツと文化で笑顔づくり」、「③ つながる“みささ”！ 協力で広げる地域の未来目が、学び合う三朝みんなで育てる未来の力」です。

これらの基本目標ですが、実はAI（chatGPT）を使って何個か候補案を作ったものです。これらの候補案をまとめていった結果、先ほど申し上げた3つの基本目標を作成したという経緯です。

これだけでなく、第4～5章の原稿案でAIの力を借りて作っている箇所が結構多いので表現等が計画の性質にそぐわないことがあるかもしれませんが、その場合はこの議論の中で、仰っていただければと思います。

また「第4章 3 基本目標」にSDGsのマークを入れています。これは、第1章に「SDGsと生涯学習の関係性」について記載されていることから、他自治体が作成しているプランを参考に、SDGs目標を明記しました。

委員長

今、事務局から説明いただいたように、第4章の基本となる方向性が提案されていますが、3つの基本理念案ですが、前回の議論を基にしていますので、皆様の思いが一応凝縮した形にはなっていると思います。これについて表現方法など、ぜひご意見をいただきたいと思います。

また、事務局案では基本目標に説明加えた副タイトルがついています。これがあるのかどうかということも実は、事前の打ち合わせでも意見にあがったりしたんですが、こういう表現もどうなの

かとか、ご意見があればぜひ伺いたいです。

委員

良い案だと思います。副題についても具体的な活動目標になるのだと思いますが端的に示してあり良いと思います。

委員

chatGPT で作られたということですが、いい具合にまとめられていると思います。

副委員長

副タイトルについて、具体的なイメージが表現されており、町民が分かりやすいかなということで（副タイトルは）あった方がよいと思います。

委員

日本遺産の三徳山や三朝温泉の関係も入れてもらえたらと思いました。
三朝を象徴するようなものが中心にあった方がよいのではないかと。

委員

私も同じように思いました。

どこの町でも当てはまってしまうような内容になっていると思っていて。タイトルのところに入らなくても、説明文に何かが入って三朝ならではの基本目標になったら、いいかなというのは私も感じました。

例えば「(2) 元気で心豊かな…」に三徳山や温泉のことを入れるとか、「(3) つながる…」に何か入れるとか。

また、(2) の副タイトル「スポーツと文化で笑顔づくり」ってすごくリズムにもいいんですけど、スポーツと文化っていう2つの標記でいいのか。説明文には「芸術文化活動」とありますが、この「芸術文化活動」は芸術も文化に含めているのかなど。用語のことについては、細かいところですけどちょっと気になりました。

委員長

副タイトルの部分など、第5章「施策の取り組み」を話し合いながら整理して、その中から重要なキーワードを拾い上げていきたいと思います。

先ほどのご指摘の中で「三朝ならではの」ということがありましたが、確かにそうだなと改めて思いました。改めて振り返ってみると確かにどこの町でも、重視されている文言ですし、それを三朝の場合だったら、こういうふうに形作っていかうとか、こういう要素をさらに加えていかうとか、何かその辺りもぜひお知恵をお借りしたいなと思いました。

ただ、今ご意見いろいろ挙げていただいたんですが、基本的な方向性としては事務局案で良いということでもよろしいでしょうか。

出席委員

(了承)

委員長

ありがとうございます。

この3つの基本目標を軸に、もう少し議論を広げていながらさらに具体化していき、第4章に

ついてはこれで進めたいと思います。

事務局

各基本目標における「基本施策」案についてはいかがでしょうか。

委員長

「基本施策」は、それぞれの基本目標をさらに具体的にしたものです。事前の打ち合わせで出た意見として、基本目標1の基本施策の中に「③生涯学習情報提供の充実」とありますが、基本施策の並びの中ではちょっとレベルが違うんじゃないかという意見…重視していないわけではなく、むしろいろんな形で情報提供は重要だとは思っていますが、**ちょっとここの並びには、少し合わない**かなといった意見です。

また、基本目標3の基本施策に「④生涯学習の…体制の構築」がありますが、これも重視していないわけではなく、この施策を支えるような土台部分だったり、それを踏まえて最後に全体的に評価する体制だったりするので、ちょっと施策の内容とはまた違う形かなという意見からの話です。

なお「人材育成」の部分でも基本目標1と3で内容が重複するかもという話もありましたが、これについては別々というか、人材と言っても、それぞれ違うものを指すんだってという話も出ていて、スポーツ文化活動だと結構専門的な人材育成になりますし、一方で基本目標3の中にある人材育成は、もっと地域全体をリードするようなイメージでいいんじゃないかなってという意見も出ていました。

ただ、皆様の感想やご意見もぜひ伺いできたらと思います、いかがでしょうか。

委員

基本目標1の基本施策「③学習情報提供の充実」は、情報提供するっていうのはもう当たり前…当然のことなので、ここで挙げなくても、当然やっていかなくちゃいけないということで、**カット**でいいのかなっていう感じがしました。

基本目標3の副タイトルにある「協力で…」というワードを考えると「絆で…」でも言い換えることができるかなと。

委員長

「協力」っていうとやや限定的かなと。「心合わせて」みたいな意味合いもあるんですけど別々の考えを持っていても力を合わせることはできるし…とか。いろいろな形もあるので、そういうことをひっくるめていい表現がないかなと思います。

委員

もうちょっと気軽な感じというイメージ？

委員長

それも含めてですね。三朝の人たち、或いは三朝にある組織がお互いに手を取り合いながら、**やっ****って****い****こ****う****っ****て****い****う****感****じ****の****イ****メ****ー****ジ**ですね。

これは私のイメージですが、皆さんのご意見もあると思います。

表現はまだこれから何度も振り返って、最終的に形作れればと思っていますので、引き続き、考えていければと思います。

委員

気になったのは、基本施策2の③と3の③に挙がっている「人材育成」の部分。これは地域と実

際やっているグループとの差だろうと思う。人材ということで一括りにならない話だけれども、もう少し分かりやすい差別化がないかなど。例えば3の③では「地域で生涯学習を」という言葉があるが、そうすると基本目標1～2を含まれてしまいますよね。

「地域」をどのように考えるかの問題ですけども、小コミュニティとしての地域なのか町全体なのか。非常に狭い範囲であれば専門性の高いスポーツ・文化のこととか…。

委員長

確かに似たような表現なので紛らわしいなど、打ち合わせの時も話してはいたんですけど、基本目標3-③の方は地域協議会のイメージや、あと個人的には社会教育士や社会教育主事も入れていきたいなとは思っています。

事務局

原案作成段階における「人材育成」のイメージを共有させていただきます。

基本目標2の③「スポーツ文化活動の人材育成」について、私がイメージしたのがスポーツ推進委員であるとか、文化団体…各サークルの先生方、運動やストレッチを専門的に指導できるような講師。そういったミクロな部分で、町内で現在頑張っている方の人材育成…ステータスを上げるというか、そういうイメージの内容で設定しました。

基本目標3の③については、広義的というか、前回の議論でも「受け身だけではなくて自分たちで企画しているような学習機会を設ける」というような意見がありましたが、要するに「何か面白いことができるんじゃないか」、「何かをやってみよう」というような人たちをどんどん育てていって、自主的に能動的に動いていく三朝の生涯学習…そういった人材を育成してはどうだろうかというような内容のイメージです。

若干イメージの差があるなというところではありますが、そういった考え方で設定をさせていただきました。

委員

専門性の高い人材と地域で引っ張っていく人材…例えば地域協議会になるのだと思いますがそういうことを考えていると。分かりました。

委員長

でも表現が似通っているのもう少し表現を変えて違うものを指しているということが分かるような施策のタイトルにした方がいいなと思います。

では本議題は以上とし、次の第5章で「施策の取り組み」「具体的な目標」について話し合います。その中でちょっとこの施策はやっぱりこうした方がいいんじゃないかとか、こういう表現もちょっと盛り込んだほうがいいのかとかそういうのもぜひ考えながら、具体的な議論ができればと思います。

議題（2）第5章「施策の取り組み」について

事務局

第4章につきましては、大枠としての方向性を皆様に御確認いただきました。細かい修正はこれから続けていくことになると思います。

次の議題ですが、第5章「施策の取り組み」についてです。先ほど第4章の中で、基本施策の内容について確認していただきましたが、この第5章では、この基本施策それぞれにどのような目標を設定し、その目標に対してどのようなアクション、事業をやっていくかということについて、皆

様のご意見をいただきたいと思います。ここでいただいた御意見を事務局でまとめて原稿を作っていきたいと思います。

これらの検討はグループワークで行いますので、その中で「この基本目標についてはカットしてもいいんじゃないか」「別の観点があってもいいんじゃないか」ということを議論いただければと思います。

進め方については、委員長をお願いします。

委員長

この後のグループ協議ですが、基本目標1～3それぞれに分かれて議論いただきます。

今日のこの議論で、特に皆様に意識していただきたいのは、この施策の目標や取り組みは令和10年に向けてぜひ実現可能なものになって欲しいと思っています。参考資料としてそれぞれの内容に合う現在三朝町で行っている事業が挙げられていますので、これをさらに充実、或いはこれに似たようなこんな取り組みがもっとできないかというように、現行事業も生かしつつ、実現可能な新規事業も取り入れていただくようなアイデア出しがいいなと思っています。

と言うのも、あまり大きな目標ですと令和10年までに全然到達できないということよくないですし、ただ、長期的な目標としてもそれに向けて次の5年間とか、何とか前進できるようなものでもいいと思うんですけど、ちょっとこのプランの時間的なものもちょっと見据えた上で、ぜひご議論いただきたいなと思います。

まとめ役を中心に、アイデア出しと、それぞれのグループでのまとめをしていただきたいと思います。最終的に全体で意見をまとめていきたいと思っていますので、最後にまとめる時間もいただきます。

～グループ協議～

委員長

それではそれぞれのグループで協議結果を発表いただきます。

初めに基本目標1「学び合う“みささ”」グループをお願いします。

副委員長

基本施策1-①の「ライフステージに応じた…」という部分で「家庭教育と成人教育の観点でまとめるべきか」ということについて話し合いましたが、なかなかいい答えが出ませんでした。2つのカテゴリーに分けるべきか、ライフステージという一つの概念で表現するのか…ライフステージ一本でもいいかなとは思いましたが、なかなかカテゴリーを分けるということはいいい知恵が出ませんでした。

施策目標としては、家庭教育というのは小中学生、それから保護者を対象にするということですので、まずは屋外で子どもと保護者を屋外に引っ張り出して遊ばせる機会を作ること。

それから、多様な学習活動の参加を促進すると…これは抽象的な表現になりますがそういうことが考えられます。

また、社会人や大人をターゲットにした場合、産業界や大学と連携して出前講座なり、例えば産業だったら、現地に行ってリスキリングをしてもらう。あとは社会人向けに、常識や良識を学ばせる講座の提供。あとはICTですね。

そんな感じで、施策目標を検討しました。

具体的な取り組みとしてはキャンプとか、基本施策2（スポーツ、文化活動等）の施策と被らないように、キャンプや百人一首、eスポーツ…そのような実現可能なこと等となりました。

委員長

続いて基本目標2「元気で心豊かな“みささ”グループをお願いします。

社会教育課長（グループ2まとめ役）

基本施策2-①「スポーツ・文化活動を気楽に体験…」について、施策目標は『町民80%参加を目指した一スポーツ一文化活動の推進』です。これに対する取り組みは、イベントの種類がいろいろあるので、多彩なイベントの開催ということで、初心者向けの体験会や各スポーツ団体の主催する専門的なイベントなどが考えられます。

基本施策2-②「町民が主体的に活動する…団体、グループの支援」の施策目標は『ニーズに合った支援の充実』。取り組みについてですが、施設利用料の減免などすでに実施しているものも含めながら、もう少し活動のレベルアップではないですけど専門家の講演会を開いて知識や技術の向上を図るといったことが考えられます。

基本施策2-③「スポーツ文化・活動を牽引・指導する…」について、施策目標は『後継者の育成』です。取り組みが、多世代交流の場を設ける。指導者に対して資格取得の支援。以上です。

委員長

最後に基本目標3「つながる“みささ”グループは私が発表します。

いろいろ話が広がってしましまして施策ごとに話し合ってもいけません…。

まず「子どもたちが参加する、集まるっていうのが大事だろう」ということから集まる機会をたくさん作ろうと。この時に、企画した人達が楽しんでやるような仕組みづくりが大事ではないかということです。祭りやイベントでもそうですが、楽しんで参加するとか、参加すると得みたいな、そういう仕組みづくりも考える必要があるといった意見が出ました。また、そこから次に繋がるようなサイクルが生み出せれば…みたいなことも話し合いの中で出ました。

あと、地域協議会の繋がりも大事ですが、既存の組織で言うと消防団のつながりをもっと活かさないかって言う話が出ました。ただ、こういう“目標を持ったつながり”も大事な一方で“緩やかなつながり”も大事という話も出ていて、集まるとかつながるっていうときに、集まれる場所や時間帯も考えることが必要ということから、既存の施設や場所を有効活用するような、後押しができるような仕組みもあったらいいねっていう話が出ました。

例えば「集落公民館や施設とかが、同窓会や食事会でも使えますよ」みたいなモデルケースを作ってもいいんじゃないかなっていう話がありました。

人材育成という点では、研修会みたいに言うのと堅苦しいので、何かのイベントと研修をセットにするとか、或いはそのイベントをやるときの補助を出すとか、講師や指導者のアドバイザーバンクの構築のような、いろんな仕組みを作っていくのはどうだろうとか。また講座に参加したり、リーダーになったらポイントが貯まっていくような仕組みとかもできるんじゃないかなとか…まとまってはないですが…何かしら参加したり、企画したり、それをやってよかったと思えるような仕組みができないかということです。

以上で、各グループの発表は終わりますが、これまでの発表について他グループから意見、感想などをお願いします。

副委員長

当グループで答えが出なかった基本施策1-①の「ライフステージに応じた…」という部分で「家庭教育と成人教育の観点でまとめるべきか」ということについて、みなさんの御意見を伺いたいです。

委員長

町民のみなさんにとって、どっちが分かりやすいですかね。

副委員長

家庭教育というよりは、「子ども」と「大人」の方が分かりやすいんですけどね。家庭教育という言葉になるとちょっと分かりにくいかな。

委員

いわゆる学齢期ではない子どもという思いなのか、それとも幼児期の家での指導みたいなのを目指した家庭教育なのか。

副委員長

一般的には高校生も含まれると思いますよね、家庭教育となれば。

事務局

2つに分けることの大きなメリットであるとか、分かりやすさというところが強いのであれば分けたほうがいいかなという気がするんですけども、まだちょっとそこまで見えないねということであれば、とりあえず「ライフステージに合わせた」という含みを持たせた、いろんなことにも対応できるような表現というのも一つの手かなと思います。

副委員長

私が思ったのは、ライフステージ…分かりやすいとは思うんですよ。
各年代…小・中・高校生、大人、高齢者までずっと。

委員長

生き活きプラン 21 では、かなり細かく分かれていましたよね、いろんな時期…それが念頭にあればいいですけど。

ちょっとこれは保留として継続検討としたいと思います。

副委員長

ちょっと聞いたんですけど、短期大学でいろんな講座があるんですけど、そこに参加してもらっている講座を聞くとかですね、そういったこともできるみたいだし。

また、ニーズをこちらから言えば、出前講座で来てもらえるというようなことも聞きましたので、そういうことも活用して学ぶ機会を作ることは実現可能だと。

委員長

ちなみに「常識を学ぶ」という意見がありました。

委員

確かに人のことは言えませんが、常識に欠けている部分をどのように補うかということはある意味必要なことかもしれない。

大人の常識と若者の常識とはズレがあるかもしれない。

副委員長

様々なハラスメントがいっぱいありますから。

事務局

カスハラやパワハラとかの、基礎知識を学ぶ機会って社内研修くらいしかないと思うので、興味のある方はいらっしゃるだろうという気はします。あとはそれをどれだけ参加につなげる仕掛けをしていくかといったところもありますが。

ちょっと思いついたのが「常識を学ぶ」というところで、テーブルマナー講座というような感じで食事食べながらテーブルマナーを学ぶみたいな講座だと面白いかなと。

副委員長

今、人権教育だけはきっちりやっていますよね。それ以外の教育はなかなかできていないのかなと。それはもう学習してもらわなければいけないのではないかと思います。

委員

まさに出前講座などでも人が集まりやすい、おいしい講座をいっぱい提供したりという…。

副委員長

人権の出前講座を年間でやっていますよね。この時に人権のテーマだけではなく、一つ何か別のテーマを被せてしてみてもどうか…5～10分程度でも。

委員

グループ協議の中で、コミュニケーションスキルの話も出ました。親世代だったら子どもへの声かけをどうしたらいいかなとか、思春期の子どもたちの対応の仕方、心理学などというのは、ニーズがあるかもしれないし。

発表には出なかったですけど「健康」については高齢者のニーズがありますし、世代によってニーズのある講座がいろいろできるかなと。

事務局

「子どもへの声かけの仕方」については、現在小中学校や保育所の保護者会等で家庭教育講座を実施いただいております、町からそれに対する講師謝金や消耗品購入の支援を行っていますが、最近徐々にネタ切れになっているところもありますので、講座メニューのアイデアを提供して、積極的に取り組んでもらうことが出来るかもしれません。

学ぶ場所を作るにしてもどういう講師がいるのか、どういうことが勉強できるかということ…自由に発想してもらおうところもあつつつ…講座メニュー例を提示してあげる。講師依頼先のリスト化と言うか人材バンク、こういうことも必要だろうと考えます。

委員

短大や、看護大学では人材が豊富でしょうから。ニーズにはいろいろ応えてもらえるのではないのでしょうか。

大学に求められているのは地域貢献がありますから、いかに地域といい関係を作るかっていうことが大事だろうと。

委員長

更に思ったのは、湯梨浜町や智頭町では“まちゼミ”という取組があるんですが、町の中であることに詳しいとか、その道のプロみたいな方が教えるみたいな…ゼミのリストを作っておられていて、そういうのもいいかなと。

事務局

そういったことは、やろうと思えばすぐできるような取組であったりするので、最初の目標としては、取り掛かりやすいかもしれません。

委員

とにかく **出来るか否かを躊躇するよりは、まずはやってみよう**と。

委員長

「元気で心豊かな…」グループについてはいかがでしょうか。かなり具体的な目標も出ていましたけど。

委員

(町民 80%参加を目指した…という数値根拠について) **数値目標も必要だろうという考え方で、10年後の姿を目指してという意味で目標値を出したと…一つの例としてですが。**

町民が一スポーツ、一趣味を持ってもらえるよう…少し高い数値かもしれませんが 80%を目標に頑張ろうと。これを実現できるためにいろいろなことを提案できるように。

委員長

これもさっきみたいに“いろいろ”が分かると良いですよ。「こんな機会があるよ」みたいなリストのようなものとか。

副委員長

三朝町文化団体連絡協議会でいろんな文化サークルや活動がありますよね。非常に活発にやっておられると思うんですけど、このことが意外と知られていないですね。

一趣味…文化活動を 80%にしようと思えば、やっぱり周知することから始めないといけない気がします。

事務局

文化団体連絡協議会のサークル紹介も全戸配布のチラシが年1回なんですよ。一度機会を逃すと参加する機会を逸してしまうというか。

これは**体育協会**にしてもそうなんですけど、様々な競技部がありますが、そこにどうやって入ったらいいのかが知られていない。

委員長

こういうのを見て思うのは、**どんな人がいるんだろうっていうのが結構ハードル**なんですよ。なんか、ぽって行ってウェルカムな感じなのか分からないと、ちょっと怖くて…

委員

飛び込みで入ってくる人はほとんどいないですね。

委員長

逆に友達と行くと抜けにくかったりするんですけどね。でもその兼ね合いが何かうまいことできないかなっていつも思うんですけど。

副委員長

文化団体連絡協議会の会合でも、年に何回かこういう話をされてもいいかもしれませんね。

委員長

“ニーズに合った支援”ということも挙がっていました…利用料とか。

委員

三朝町は（利用料の減免については）恵まれていると思います。その面ではあまり大きな声で言えない部分はあります。

活動のレベルアップのためには、かなり高名な専門家を呼んでいろいろ指導してもらうことも必要だと思いますが、そうすると謝礼金が掛かりますのでそういうことを支援してほしいとは思いません。

委員長

さっきの“学ぶ機会”ともリンクしていくといいですね。何かやりたいとなったときに、こういうのを今欲しているんだというニーズとタイミングが合えばいいなって思います。

ニーズを早くキャッチするとか、言いやすい窓口があるといいなとか…どこに相談すればいいのか分からないと。

委員

それでいくと基本目標1-②がちょうど繋がるかなと。「町民自らが学習機会を創出できる仕組み」というところで、窓口があって「こういうことがやりたい」という声を上げることができる場所があれば、そういう方が増えてくるのかもしれないですね。

思いがあるけれど行動を起こせない人とかがいそうな気がします。

委員長

“リーダー育成”についてはいかがでしょうか。

委員

文化団体連絡協議会でも高齢化で人数が減っていくケースが多いので、後継者を作っていかなければいけないなと思っています。

事務局

「多世代の交流」という観点だと、町グラウンド・ゴルフ協会が三朝小学校の児童たちと一緒にグラウンド・ゴルフを楽しもうという取組みをされており、町内のスポーツ競技団体による動きが今あるので、これを広げていきたいなというの也有ります。

また、それこそ芸術・文化の話で言ったら芸能文化祭でも、今年初めてバイオリン美術館による子ども合奏団の演奏や、若い世代の方が声楽を披露される等、どちらかと言えば出演者が高齢化していた中で、新しい流れが出来始めていると。

様々な分野で皆さんが新たな取組みやアイデアを出し始められているので、そこはしっかり応援していかなければならないと思います。

委員長

基本目標3に移りますが、改めて“つながり作り”は難しいですけど…目標もなかなか立てづらいたところがありますので、既存のつながりをもっと強く、或いは目的を持ったつながりもしっか

りとしながらも、緩やかにつながる機会とか、ちょっと集まる機会も広げていきたいなと思っています。

「こんなつながりもあるよ」とか、ご意見があればいかがでしょうか。

事務局

やはり取組みを続けるには、参加者や企画する側が楽しくなくてはいけないという観点があると思います。

本町では、スポーツ推進委員会がまさにそれで、スポーツ推進委員は年間通じてスポーツ企画を自分たちで考えられているのですが、皆さんが結構楽しんで活動されているんです。企画者が楽しみながらやっていると、参加する人にもそれが伝わるんです。やる側も楽しいし、来る側も楽しんでくれると、今度は口コミに繋がってきます。例えば、毎年10月に開催している「三朝町スポレク祭」ではその雰囲気は徐々に広がりつつあると感じています。

いかに**企画する人も楽しんでもらえるのかという仕組みや支援**があってもいいかなと個人的に考えています。

そのためには、**企画をどんどんしていく人たちやグループには何かしらのインセンティブ**があってもいいのかなと。例えば研修会を開催したグループにはポイントが与えられて、それが貯まると、何か景品がもらえとか。ポイントを集めるという小さなことでもいいので、何かを目的に活動していくことで将来的に習慣になっていくということを目指せないかという話は「つながる“みささ”」グループの話し合いでも意見が挙がっていました。

委員

順番的には、地域で生涯学習を牽引する人がいて、それによって新しい学習機会が創出されるという流れだと思うんですね。

まずは人材、つながりを作って、新しい多様な学習機会が作られて、ここにこういろんな人が入ってきて、多世代交流につながっていくんじゃないかなというような感じがします。

地域協議会についても、いかに上手に連携やつながりを作っていくかということは避けて通れない。

委員長

地域の核になる人たちは地域協議会や消防団でしょうか。

副委員長

消防団は（若い世代が集まる組織として）、消防活動以外にも活躍を期待したいと思いました。

事務局

消防団としてというよりも消防団を母体にした集まり…昔でいう青年団的なイメージかなと。消防団に対して消防団活動以外の活動を求めると、それはまた難しい話で。

ですが、一緒に何かをやるというグループとしての考え方はありだと思います。

委員長

そういえば南部町が青年団を新たに作ったという話もありますよね。

ちなみに南部町の新青年団グループはフェイスブックでいっぱい情報発信をしてらっしゃる。

委員

これからは、それがやはり重要じゃないかなと思います。
情報をどんどん発信すれば、多くの人が集まってくるんじゃないかなと。

委員長

ちなみに南部町新青年団で活動する人は同じジャンパーを着ていて、新青年団メンバーだと分かるようにされていました。

だから、イベントに参加して顔を売ることもできるし、フェイスブックとかで今度こんな活動しますみたいな情報発信も同時にしているし。

実際の活動 PR と SNS をミックスしているのもすごいなと思いました。

事務局

多分ネットで情報を受け取ってもらうためには、まずはリアルな部分で活動を見つけてもらわなければならないと思います。単にこちらから情報発信しても、その受け取り側が、それに興味が無かったら、三朝というワードに興味が無かったら、おそらく情報を受け取る機会がない…情報が流れてこないのではないかと思います。

ですが、やはりリアルな部分で何かをまず仕掛けていって、結果として口コミや SNS で広がるという流れになるのではないかという気がします。

情報発信も大事ですが、まずはリアルで…とりあえずやってみようの精神…これが2つ重なって、ようやく情報発信が機能してくるかなと感じています。

委員長

時間も参りましたので本日の会議は以上とさせていただきます。

これからの予定について事務局からお願いします。

事務局

本日いただいた意見は事務局でまとめ、一旦プランの原稿に落とし込んでみたいと思います。それを踏まえた上で、さらなる議論とするのか、内容の確認だけで済ませるのか、その辺は正副委員長と協議の上、皆さんにお示ししたいと思います。

委員長

ここからがより重要になる議論になります。これまでの議論をより具体的にしていき、本当に実現を目指したいっていうところになります。

今回も長時間にわたりアイデアを出していただきありがとうございました。引き続きどうぞよろしく申し上げます。ありがとうございました。